

里の食農教育活動の可能性

～ふるさと資源を活用した食育活動のすすめ～



NPO法人 里の自然文化共育研究所

出川 真也

食の活動の前身1

地域と学校のパートナーシップによる環境教育活動
—村内の各学区の地域（集落）特性（自然・生活文化・人）を生かして—



食の活動の前身2


老人パワーの炸裂！（社会教育課長談）と地域内コミュニケーションの活性化、そして里の自然と文化の再発見、再評価、再創出へ



老年世代の知恵と技術から学ぶ



メダカの学校（取り組みが進む中で住民パワーによって作られた）＜古口地区＞



住民による地域作り・環境作り・学校 作りの新しい展開

～地域運営学校「角川里の自然環境学校」の取り組み～

地域の自然と文化を利用した食農教育活動へ



角川の里全景

多面的・公益的機能の発揮

(水涵養、農産物の供給、ふるさとの原風景(癒し)、地球温暖化防止機能.etc)

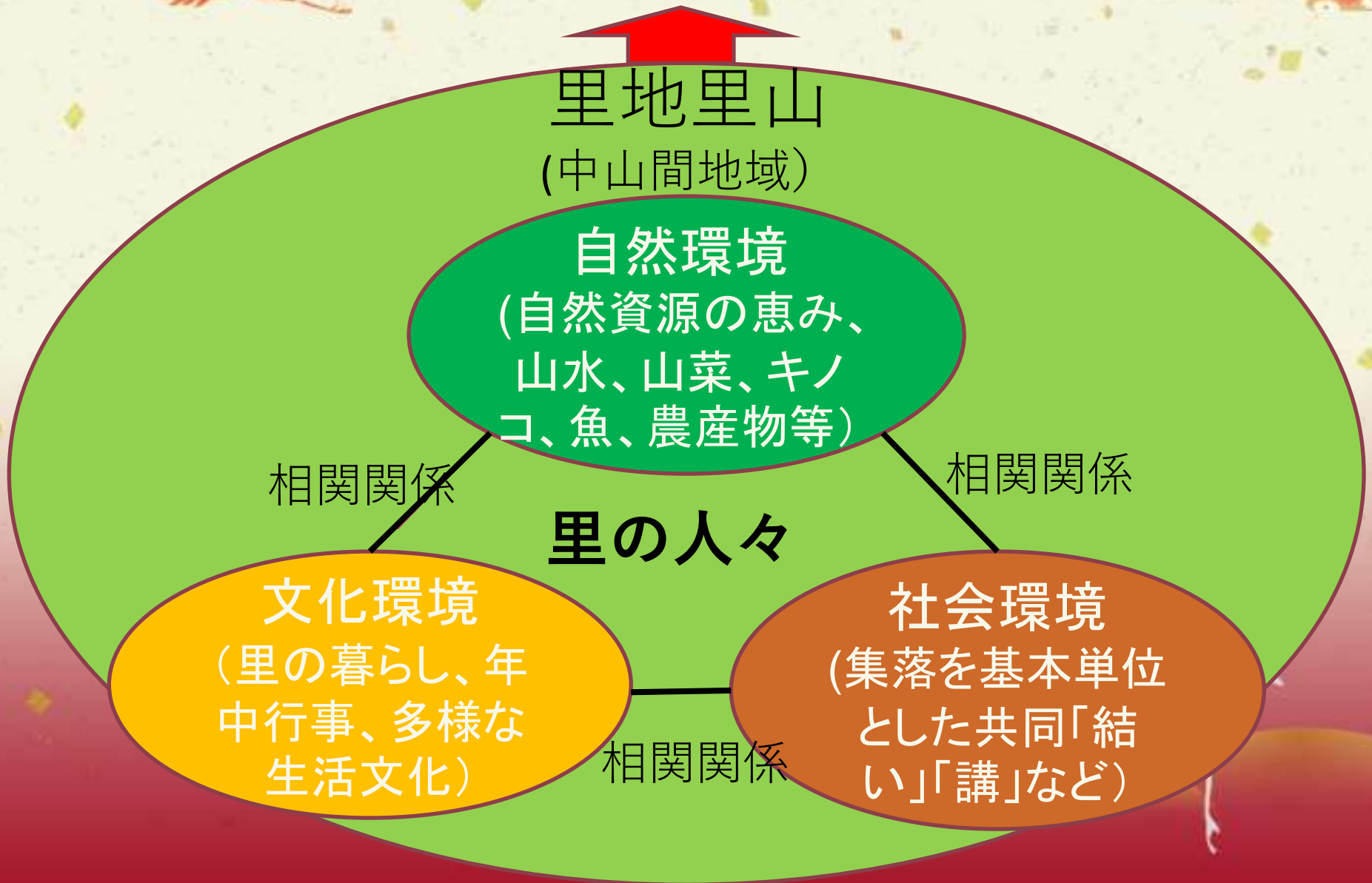


図1:里地里山構成の相関関係

角川里の自然環境学校設立

- ◆ 1,最上郡戸沢村角川地区は豊かな山と川に囲まれた日本の原風景を残す農山村です。
- ◆ 2,角川地区にはこうした里の環境を基盤とした貴重な自然や文化が息づいています。
- ◆ 3,しかし、こうした地域の財産が受けつながらないまま廃れようとしている現状があります。



- ◆ 当学校は、角川地域の文化(知恵や技術)を担う住民を「里の先生」として活動の企画・運営の中核にし、地域の自然や文化を再発見し、子供達に教え伝える取り組みを通して、農山村の未来に向けて、住民主体の新たな地域作りを行う地域運営学校です。

地元学（地域の環境文化調査）

～まずは地域の「あるもの探し」からはじめよう～

地域住民とヨソモン約130名の参加の下で実施

6つの学校全体の取り組み



地元学(地域の環境文化調査)

～聞いて、見て、やってみて、調べました～

子どもも大人もじいちゃん、ばあちゃんも楽しくなる



地元学（地域の環境文化調査）

皆で発表会、調べたものを地図にまとめて今後の活動を話し合う。集落の将来の夢を語り合いました。



子供から大人、じいちゃんばあちゃんまでみんなで語り合いました。

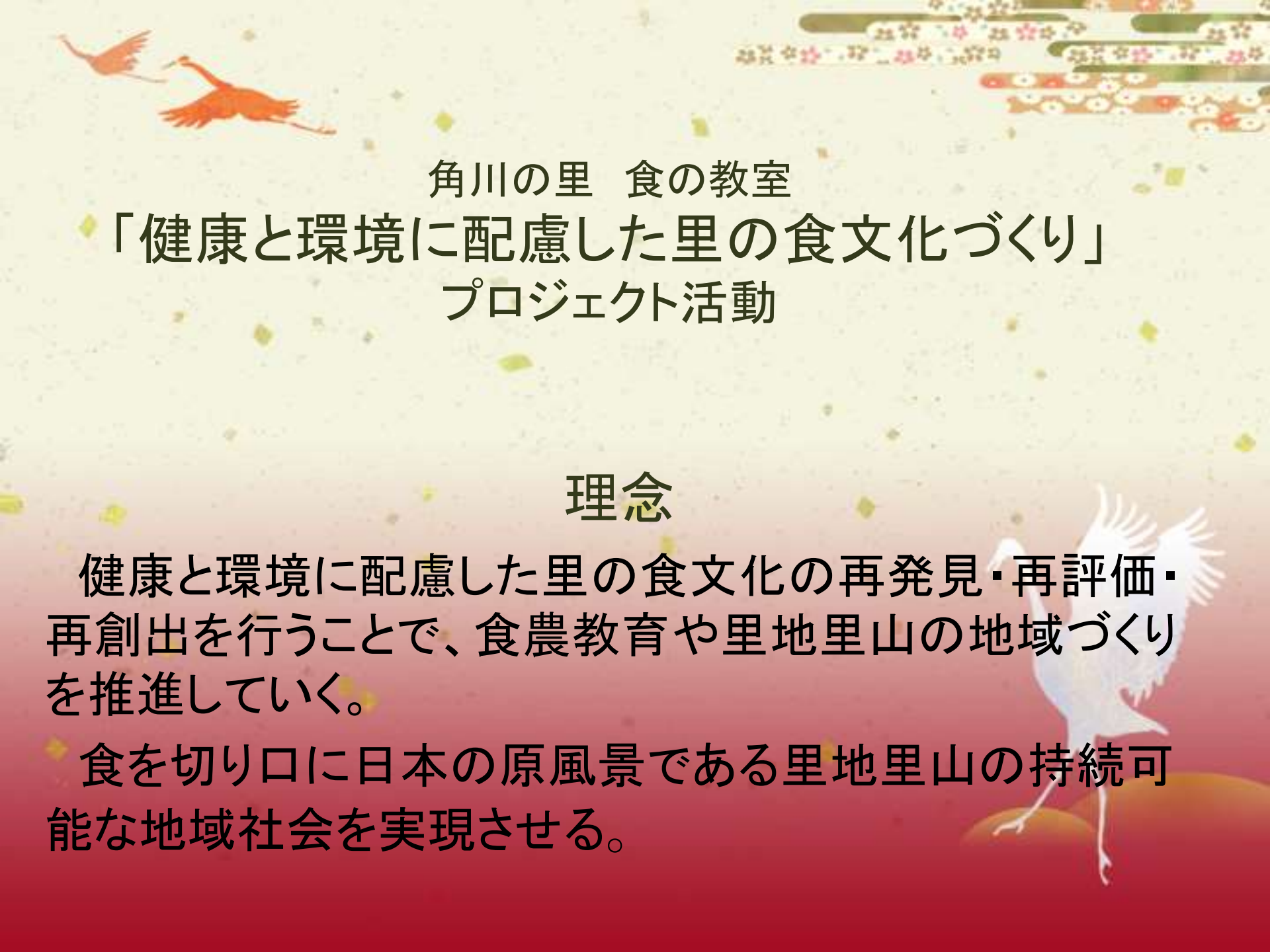
地元学で再発見された郷土料理の数々



組織構成

当学校は角川14集落の「里の先生」を中核に次の6学校と4部局で構成されています。

- ◆山の学校
- ◆川の学校
- ◆食の学校
- ◆農の学校
- ◆もの作り塾
- ◆民話・昔遊び塾
- ◆研究部(コミュニティ活動・環境保全/地域資源研究部)
- ◆交流部(ヨソモン交流センター<子ども交流館>)
- ◆探検部(南部里地探検隊)
- ◆応援部(自然学校サポーター ※現在,主に高校生で構成)



角川の里 食の教室

「健康と環境に配慮した里の食文化づくり」 プロジェクト活動

理念

健康と環境に配慮した里の食文化の再発見・再評価・再創出を行うことで、食農教育や里地里山の地域づくりを推進していく。

食を切り口に日本の原風景である里地里山の持続可能な地域社会を実現させる。

活動方針

地域の素材と人材によって、伝統的知恵と技術を基盤とした里ならではの郷土料理を再創造する

- ◆ (1) 地域の素材にこだわる
※環境配慮型の食材作りに留意する→山、川、農の学校と連携
- ◆ (2) 地域の人材にこだわる
- ◆ (3) 地域の伝統的な知恵と技術にこだわる

活動機能

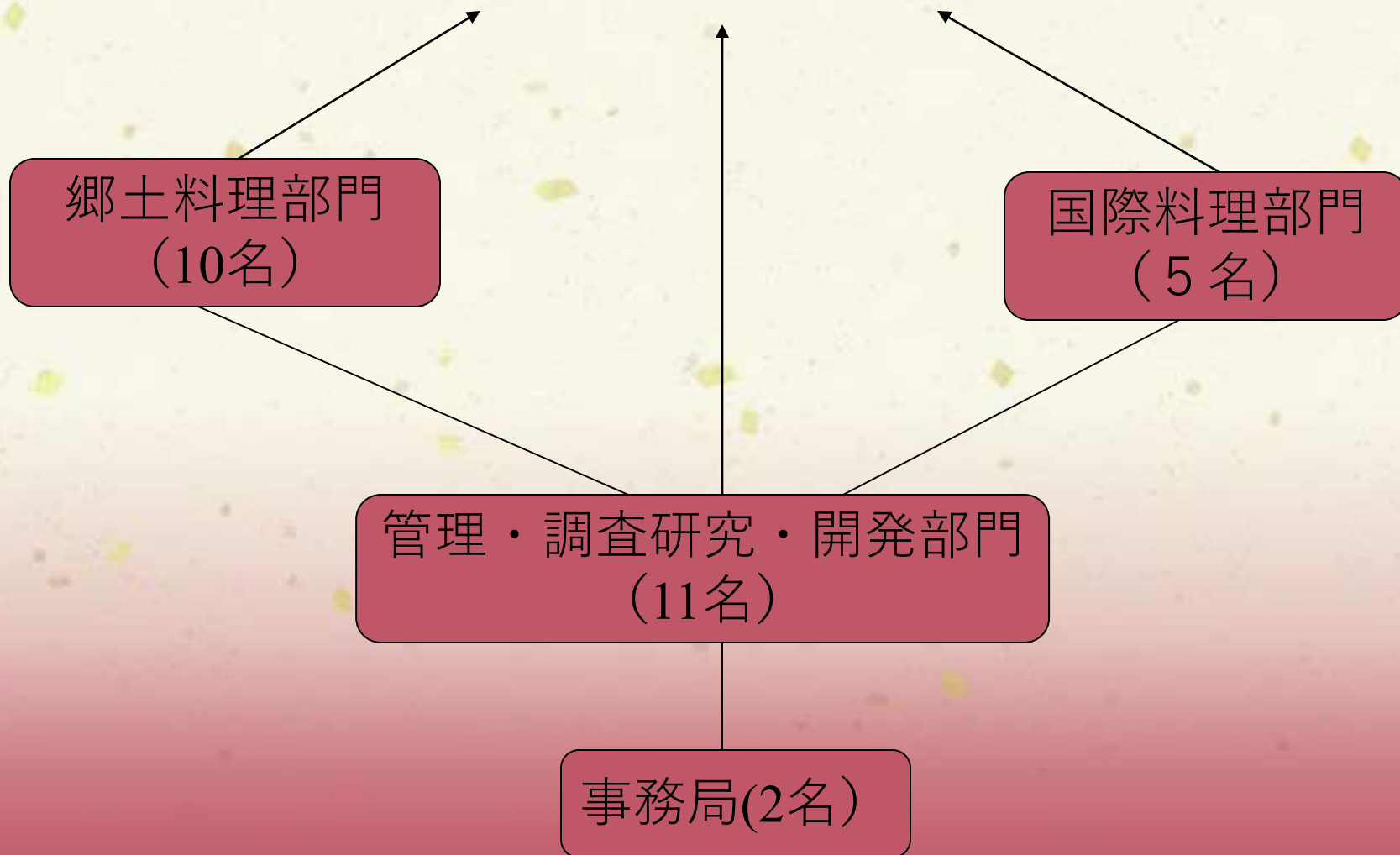
- (1) 里の食文化の調査研究
- (2) 里ならではの食ライフスタイルの構築
- (3) 食農教育の実施
- (4) ツーリズムや販売を介した外部へのPR

里のライフスタイルの構築・地域食文化の再創出と発信



食の教室 組織図

里独自の食のミッションの実施
(料理教室、生産販売、ツーリズム、PR)



郷土食講習会

地域の女性達こそ主役！地域の自然と農業に根ざした食文化を体験しながら勉強しました。



ふるさとの食資源を食育の素材として活用

放課後子ども教室での郷土料理教室



新庄神室産業高校
農業クラブによる
角川の食資源調べ



中国ギョウザ講習会

外国の花嫁が担う食文化も新しい郷土食として学びたい



秋の里山散策会

キノコ狩り、キノコ料理講習会、里山新聞作り



里の自然と知恵を組み合わせ
た子ども達への学習会

食材を自分たちの手で作る－食農教育への展開－

－生き物と人が共生する未来志向の農業をデザインする－



無農薬・体験田んぼ

田んぼの学校



畑の学校（野菜作りと里山保全活動）



ビオトープ作りへの展開

06年度これまでの歩み

- 4月 計画策定
- 間伐学習会(木道の切り出し作業)
- 5月 教育旅行の受け入れ
(ビオトープ作り体験)
ビオトープの造成作業
(東沢4カ所)
- 6月 環境教育専門家によるビオトープ
研修会
- 7月 ビオトープ巡り
生き物調査学習会
- 8月 日本財団郷土学セミナー受け入れ
(ビオトープ体験)
- 10月 もがみビオトープネットワーク開催



木道の切り出し



材料の搬送作業



ビオトープ完成後



休耕田を活用、土盛り後の様子



ビオトープ水張り後



ビオトープでの朝の植栽作業



ため池生き物調査
(本郷山田)



ビオトープでの生き物調べ
(国環境審議会委員を囲んで)

角川の田んぼの学校では

子ども達と一緒に生き物が棲息し楽しく田んぼ体験活動を行うために、そして安全安心米を作るために、休耕田を活用したビオトープ作りと田んぼの学校をセットで推進しています。

里山に近い棚田の上流部の田んぼをビオトープ化し、隣接する田んぼで無農薬・減農薬の実験圃にして、子ども達の農業と環境の体験活動を推進しています。併せて周辺の里山保全活動を行っています。

こうしたビオトープと実験圃をつないで地域全体の農業と生態系の保全を図ろうとしています。

これらの活動は、全体構想の下で、それぞれの地域集落の住民が自由に企画立案し、集落ぐるみで活動を行います。



東沢づくり
の
里

西沢ビオトープ ● 上沢里山ビオトープ ●

食の教室と地域産品 づくりへ向けて



地域伝統の食文化が地域の魅力
外部の参加者と共有するための
体制整備をすすめています。

戸沢・角川地区 × 酒田・飛島法木地区

住民同士が初交流

戸沢村角川地区で採れた山菜を酒田市飛島法木地区の住民に紹介するなどした交流会
—酒田市飛島



戸沢村角川地区の住民が九、十の両日、酒田市飛島を訪れ、法木地区の住民と交流した。森の角川と海の飛島の住民同士が、互いの埋もれた「宝」を探し出し、地域活性化の足掛かりにしようとの試み。初の交流となった今回は、互いに郷土料理を出し合い、味わうとともに、意見を交換した。

角川地区の自然環境学習 動に広がり深みを持たせよう
グループ「角川里の自然環境学習」と、他地域に出掛けて調査校（斎藤久一代表）では、活動を行っており、去年、メ住民が「里の先生」となり、ンバーが飛島に行つて県漁業地元の文化や伝統などを次世代に伝えている。二〇〇六年 協同組合飛島支所女性部（斎藤栄子部長）と交流。その後、からは同学校の研究部が、活 今回の話がまとまった。

森と海の宝 地域の力に

さらさらに広がる活動の可能性
地域の特性を生かした交流と学びの広がりに

郷土料理出し合い、意見交換

交流活動には、同学校と、同学校研究部が昨年、設立した特定非営利活動法人（NPO法人）「里の自然文化共育研究所」（大山勇理事長）、同女性部の関係者約二十人が参加。法木会館で開かれた郷土料理交流会では、角川地区の住民がフキの煮物やミズなたきなどの山菜料理を出したのに対し、飛島側はスルメイカの煮物やサザエのつぼ焼きなどを披露した。

また、飛島では間もなく、トビウオの焼き干し作りが本格化するが、調理過程で欠かせない炭が不足している。一方、角川地区はナラを用いた「日山白炭」の産地として有名。そこで、トビウオの焼き干し作りには日山白炭を利用してもらうきっかけにしようと、四十五分を提供した。

里の自然文化共育研究所の出川真也専務理事は「山と海が一緒になったときに発揮される力に可能性を感じた。事業化に向け、角川の山菜と飛島の魚を用いたレシピを開発してどうかといったアイデアが出ていたと話していた。